

特別展

天災地変人禍に抗して

北海道の災害と文学

2021年

7月13日(火)

() 8月22日(日)

※月曜休館。8月9日(月・振休)は開館、8月10日(火)は休館
午前9時30分〜午後5時(入場は午後4時30分まで)

当初の会期から右記に変更となりました。
今後も新型コロナウイルス感染症拡大の状況により変更する場合があります。
その際はホームページ等でお知らせします。



観覧料：一般500(400)円 高大生250(200)円 中学生以下・65歳以上無料。

()内は10名以上の団体料金

土曜日および学校の教育活動の一環として観覧する高校生、学校の教育活動の一環として観覧する引率教員、児童・老人福祉施設に入所している方とその引率者、身体障害者手帳をおもちの方とその引率者、生活保護を受けている方等は無料となります。

主催：北海道立文学館、公益財団法人北海道文学館(北海道立文学館指定管理者)、北海道新聞社

後援：北海道、札幌市、札幌市教育委員会

中島公園

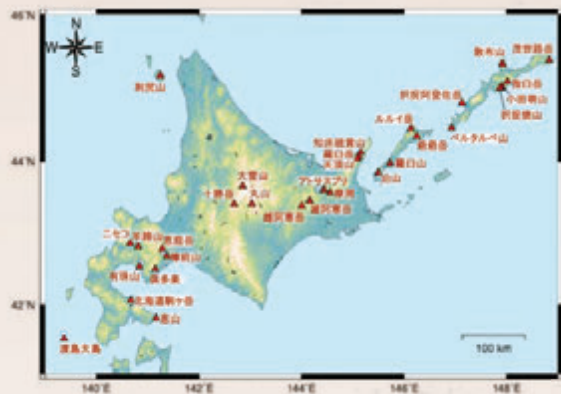
北海道立文学館 特別展示室

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-4

TEL. 011-511-7655 <http://www.h-bungaku.or.jp>

施設設置者：北海道教育委員会 指定管理者：公益財団法人北海道文学館

掲載図版 上部背景：多くの被害をもたらした十勝岳噴火(1926年、上富良野町郷土館提供 部分、加工) 左上から：日本付近のプレートの模式図(気象庁HP「地震発生のしくみ」より)、『泥流地帯』の取材をする三浦綾子(左)と光世(合田一道氏提供)／船山馨『石狩平野』(河出書房*現・河出書房新社、1967年)カバー／大火直後の岩内港付近(1954年、岩内町郷土館提供)／吉村昭『熊嵐』(新潮社、1977年)表紙／地図：北海道の主な災害人禍マップ



北海道の活火山 気象庁HP・北海道の活火山より加工して作成

2011年3月11日の東日本大震災から10年が経ちました。近年は「過去に例を見ない」規模の台風や集中豪雨などが全国で続発しています。北海道もまた災害にさらされてきました。大地震と津波、台風・水害、噴火・泥流などの天災地変に加えて、北方の地理的に過酷な自然環境、近代化を急ぐゆえの人為的惨禍に多くの命が失われてきました。

本展では北海道で起きた災害の記録を振り返るとともに、凄絶な被災の現実に向き合い、多彩な作品へと結実させてきた表現者たちの営為を紹介します。

【会期中のイベント】 *いずれも事前申込制。

●講演会 1

「災害と社会」

7月22日(木・祝) 14:00~15:00 当館講堂およびオンライン 無料

講師:外岡秀俊(ジャーナリスト、作家)

*申込:A、Bのいずれかからお選びください。

A 当館講堂で対面による受講

6月15日(火)9:00より電話受付 先着順・定員25名

B オンラインで受講 (講演の動画を後日配信)

ホームページから申込 <http://www.h-bungaku.or.jp/>

6月15日(火)9:00より7月22日(木)17:00まで受付

*Bは、インターネット環境が必要です。

こちらのQRコードからも

アクセスいただけます。



●講演会 2

「記憶と記録の北海道災害史」

7月23日(金・祝) 14:00~15:00 当館講堂 無料

講師:合田一道(ノンフィクション作家)

*申込:6月18日(金) 9:00より電話受付 先着順・定員25名

●朗読会

「『石狩平野』と『泥流地帯』を味わう」

7月25日(日) 14:00~15:00 当館講堂 無料

朗読:安藤千鶴子(朗読表現講師)

船山馨、三浦綾子の名作をダイジェストでご紹介します。

*申込:7月6日(火) 9:00より電話受付 先着順・定員25名

●シリーズ講座

1 「船山馨と石狩川水害」

7月31日(土) 14:00~15:00 当館講堂 無料

講師:谷口雅春(ライター・エッセイスト)

*申込:6月22日(火) 9:00より電話受付 先着順・定員25名

2 「渡辺淳一と炭鉱盛衰史」

7月18日(日) 14:00~15:00 当館講堂 無料

講師:谷口孝男(コラムニスト、北海道文学研究)

*申込:6月29日(火) 9:00より電話受付 先着順・定員25名

3 「洞爺丸台風(台風15号・マリィ)をめぐるドラマ」

8月15日(日) 14:00~15:00 当館講堂 無料

講師:若名直子(公益財団法人北海道文学館学芸課長)

*要申込:7月27日(火) 9:00より電話受付 先着順・定員25名

新型コロナウイルス感染拡大により変更が生じた場合は、ホームページ等でお知らせします。

*混雑時には、入場にお時間をいただく場合があります。

●常設展のご案内／北海道の文学(通年開催)

北の大地に育まれてきた北海道の文学。自筆原稿や初版本など貴重な資料を展示。

観覧料:一般500円(400円)、高大生250円(200円) ()内は10名以上の団体

65歳以上、中学生以下無料。高校生は土曜日無料。*詳細はお問い合わせください。

*常設展文学館アーカイブ 第1期「文学者たちの愛した品々」4月10日(土)~7月4日(日)

第2期「小山内龍が遺した漫画・絵本・挿絵の世界」7月13日(火)~10月10日(日)

●次回展:「ファミリー文学館 彫り続けた北の自然-絵本画家・手島圭三郎の40年」

8月28日(土)~10月17日(日) 観覧無料

ご来館のお客様へ/入館にあたってのお願い

◇発熱や体調不良等の風邪症状のあるお客様はご来館をお控えください。

◇館内入口にて検温を行います。37.5℃以上の発熱が認められた場合、

入館をお断りします。

◇咳エチケット・ソーシャルディスタンスにご協力ください。

◇マスクの着用をお願いします。

緊急連絡先記入のお願い

来館者や職員に新型コロナウイルスによる

感染者が発生した場合に、その事実を

皆様にお伝えするため連絡先の登録をお

願いしています。

北海道立文学館

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-4

交通案内:地下鉄南北線【中島公園駅(出口③)】または

は【幌平橋駅(出口①)】から徒歩6分

市電「中島公園通」停留所下車徒歩10分

JRバス・中央バス「中島公園入口」より徒歩4分

【お問い合わせ】

TEL:011-511-7655

<http://www.h-bungaku.or.jp/>

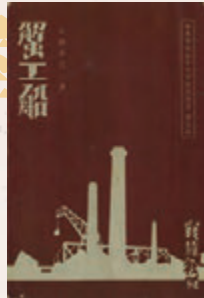
施設設置者:北海道教育委員会

(教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課(代)011-231-4111)

指定管理者:公益財団法人北海道文学館



水上勉『飢餓海峡』(朝日新聞社、1963年9月)表紙



小林多喜二『蟹工船』(戦旗社 1929年9月)表紙



木田金次郎(大火直後の岩内港)1954年
木田金次郎美術館蔵 *複製により展示



空襲で炎上する釧路市街



三岸好太郎
(大洪水スケッチ④)巴農場の跡に取り残された馬
「東京日日新聞北海道樺太版」
1932年9月22日

三浦綾子『泥流地帯』
(新潮社、1977年3月)表紙



フェイスブック、
ツイッターでも
情報発信中!